

# カラスムギ防除暦

★「効果」は、「大：カラスムギの発生(混入)を98%以上低減できる」、「中：カラスムギの発生を50～90%程度低減できる」を示します。  
 ★「コスト」は、「大：掛かり増し経費1万円/10a以上」、「中：掛かり増し経費1万円/10a未満」、「小：必要な機材を有していれば掛かり増し経費はほぼ不要」を示します。

ひとつひとつの技術だけでは高い防除効果を得られないため、複数の技術を組み合わせてください。カラスムギの発生量や圃場条件、機械装備に応じて技術を導入してください。

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
-----	-----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

カラスムギ出芽(出芽ピークは12月頃で、出芽期間は休眠程度により異なります) ———— カラスムギ出穂 ———— カラスムギ成熟

## 麦類播種

### 石灰窒素



麦類播種3～4週間前に散布してカラスムギの出芽を前進化させ、播種前の一斉防除を効率化します。

効果 **中**    コスト **中**

### 溝施肥

麦に施肥を集中することでカラスムギの生育を抑制します。

効果 **中**    コスト **小**

## 除草剤 (2～3回)



麦類播種後、カラスムギに効果のある除草剤を、カラスムギ出芽前～1葉期までに2～3回散布します。

効果 **中**    コスト **中**

## 麦類収穫

### 収穫物の調製



麦類収穫物を乾燥後、比重式選別、粒厚選別、色彩選別することによりカラスムギ種子を除去できます。

効果 **大**    コスト **小**

### (手取り除草)

本マニュアルでは扱いませんが、徹底防除には不可欠です。

効果 **大**    コスト **大**

## プラウ耕(深耕)



カラスムギが出芽できない深さに種子を埋め、発生を抑えます。

効果 **中**    コスト **小**

## 蒸気除草



蒸気処理防除機で地表面を加熱し、地表面のカラスムギ種子を死滅させます。

効果 **大**    コスト **大**

## 不耕起管理

カラスムギの当年産種子を地表面に留めることで出芽が前進化します。また、土壌が硬くなるため深い位置からのカラスムギ出芽が減少します。

効果 **中**    コスト **小**

## 休耕(作目転換)及び耕うん



麦作を休耕し12月及び3月の2回耕うんと6月(重要)～11月の定期的な耕うん、または作目転換により、新たなカラスムギ種子の供給をストップします。2～3年実施することで土中のカラスムギ種子はほぼ死滅します。

効果 **大**    コスト **—**

←ジャガイモに作目転換した例

### 適期すき込み

カラスムギ多発により、やむを得ず収穫放棄する場合は、カラスムギの出穂後3週目までにすき込むことで翌年の発生源になるのを防ぎます。

効果 **—**    コスト **小**